

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第2回川島町総合教育会議	
開 催 日 時	平成29年10月23日（月）午前11時から	
開 催 場 所	川島町役場 第2委員会室	
議 題	(1) 統合小学校の校歌の決定について (2) 「教育で選ばれる町」を目指した取り組みについて ～平成29年度 全国・埼玉県 学力・学習状況調査の結果から今後の取り組みを考える～	
公開・非公開の別	公 開 ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	構成員	飯島和夫町長・志村 宏副町長・中村正宏教育長・ 菊池建太教育長職務代理者・福島彰教育委員・ 及川三栄子教育委員・猪鼻恵美子教育委員
	事務局職員	石島一久参事・伊原郷史室長・柴生田英香主査（以上政策推進課）、石川勉教育総務課長・粕谷克己理事・坪内嘉夫室長、向後正隆指導主事（以上教育総務課）、内野修一課長（以上生涯学習課）
配布資料	会議次第 資料1-1・1-2・1-3・2-1・2-2	
審議会等の内容・概要		
<p>1 開会</p> <p>（司会より会議の開催にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。会議録については、発言委員名を記載して公開する旨で構成員より了承を得る。）</p> <p>2 あいさつ 町長</p> <p>3 議事</p> <p>町 長：本日の会議の議事については、個人情報 を特に取扱っていないので公開と</p>		

し、会議録の作成は、発言者の名前は記載し、要点をまとめて記録します。最後に、会議録の署名は、福島委員を指名します。

教育委員：異議なし。

町 長：事務局に質問しますが、傍聴希望者の状況はいかがですか。

事務局：傍聴者の定員が8名のところ、傍聴希望者は1名でした。定員以内であることから、希望者全員を入場させてよろしいでしょうか。

町 長：今、事務局から報告がありましたが、本日、1名の傍聴希望者がおります。傍聴希望者を入場させてよろしいでしょうか。

教育委員：異議なし。

(1) 統合小学校の校歌の決定について

(事務局にて、資料1-1を用いて説明)

町 長：分かりました。さて、前回の総合教育会議で、教育委員の皆さんと校歌制作方針に関して協議した時の記憶では、新しい校歌には「斬新さ」を取り入れたいという意見だったと思います。また、「つばさ」という校名に込めた「未来志向」のイメージと「地域性」を校歌に取り入れるということだったと思います。さらに、グローバル化の時代にあって、外国籍の方が聞いて理解できる歌であるという視点も大切だと考えます。これらの点について、今回提案された校歌(案)はどうか、事務局に補足説明をお願いします。

(事務局にて、資料1-2・1-3を用いて説明)

町 長：今回制作された校歌は、今までの校歌とは異なり、あえて「斬新さ」を求めたという説明ですが、子供たち、地域の皆さんに受け入れてもらえるのか不安もあります。それだけに今回の校歌(案)については、いろいろと議論があったとも伺っています。教育委員の皆さんは、この「斬新さ」という点についてどうお考えになりましたか。お一人ずつご意見ををお願いします。

菊池委員：歌い出しが校名から始まる点が斬新だと思います。3分間の歌う時間の中に、歌詞には、子どもたちへのメッセージが込められており、また、歌いやすいメロディーだと思います。「夢に」や「希望の」といったフレーズは現代っぽいと感じました。子どもたちもきっと好きになると思います。

福島委員：出来上がった校歌は制作方針に沿っており、子どもたちの思いを直接聞き取って制作したことは評価できると思います。校歌にサブタイトルを付けたこと

も、若い感性を感じられて、良いと思います。子供たちだけでなく大人たちにも歌ってほしいと感じました。そして、地域全体での一体感が生まれることに期待します。従来の校歌では1番2番3番といった区切りがありました。そのパターンを取り除いている点も斬新だと思います。この校歌を子どもたちがどのように感じるのか非常に興味があります。歌詞もシンプルで、非常に良くできた校歌だと思います。

及川委員：校歌といえば、「古きを大切に」という考え方を敢えて選んで古風な歌を作るケースが得てしてあるわけですが、この校歌は敢えて「斬新さ」を選んで形式に捉われていないところが良いと思います。歌から、川島町が、これからどのように変化していくのか、将来に向けた期待が感じられます。また、歌詞の内容からすると、大人、高齢者にも響くものと感じました。

猪鼻委員：1番2番3番といった区切りがないところが斬新だと思います。また、ポップなメロディー、明るい歌詞など、子どもたちに受け入れやすい歌ではないかと思います。

町 長：中村教育長、補足をお願いします。

教育長：「学校は教師で決まる」と言うので、「校歌は作詞・作曲者で決まる」と言えます。今回、校歌を制作していただいた大野靖之さんは、これからどんどん伸びていく人材だと思います。この方が制作した歌、特に1番2番3番といった区切りのない「斬新さ」は、「新しい学校」の校歌としてふさわしいと思います。子どもたちと一緒に作ったというところが、私はとても良いと考えています。

町 長：たくさんのご意見ありがとうございます。実際に、この場で聞きたいので、事務局をお願いします。

(校歌(案)静聴)

町 長：校歌を聴いてみた率直な感想として、ソロシンガーがピアノで弾き語りしているような雰囲気もあれば、大勢の人たちが輪になってみんなで一緒に歌っているような情景もイメージできます。「未来志向」と「地域性」の融合というテーマで校歌を作るという難しい課題にもかかわらず、ここまで仕上げていただいた大野さんの「表現者としての手腕」には感服します。また、これまでのご尽力に感謝します。さて、教育委員の皆さんは、校歌の検討に当たり、何度も歌詞の内容に目を通し、メロディーも聴いていただいたかと思います。率直な感想を聞かせていただけますか。

菊池委員：私はCDで何度も聴きましたが、川島の風景がイメージできる校歌だと思います。「堤と皆の愛が守ってきた川島」や「長い旅を終えたコハクチョウのように」といったフレーズが特に気に入っています。川島ならではの良いフレーズだと思います。また、人へのやさしさが感じられ、卒業式などで歌えば誰もが感動する様子が目に浮かびます。

福島委員：私も何度か聴いて歌えるようになりました。校名の由来や理由が噛み砕かれた言葉で歌詞になっていると思います。「心のつばさ広げて」というサブタイトルは、圏央道が、まるでつばさのように広がる様子が模されているかのようで、とても良いと思います。「夢に羽ばたけ」「明日へ羽ばたけ」などの歌詞は、子どもにもなじみやすく、歌いやすいと思いました。

及川委員：私は1回しか聴いていないけれど、それでも直ぐ口ずさめるくらい歌いやすい校歌だと思います。川島の情景が思い浮かべられる歌詞は、子どもの情操教育にも非常に良いと感じました。それは、長い時間をかけて培われてきた堤や田園といった川島の風景が、自分たちのおじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、そして子どもたちへと伝えられていくようなドラマ性を感じるところです。また、全体的によくまとまったコンパクトな仕上がりだと思います。「これ以上でも以下でもない」と思いました。

猪鼻委員：私も一度聴いただけでスッと気持ちに入ってきました。川島の自然に見守られて育った子供たちが外へ羽ばたいて、やがて大きくなって、いつか川島町に帰ってきてほしいという思いを感じられて良いと思います。

教育長：郷土愛や愛校心などがたくさん歌詞に込められていて、これ以上ない出来だと思います。川口市内に新たに開校される高校では、歌詞に敢えて校名を入れないで制作したそうですが、生徒が泣ける歌ができたとの報道がありました。この校歌は、それに負けない良い校歌だと思います。

町長：ありがとうございます。今までにない斬新な校歌ということで、不安がないわけではありませんが、新しい学校に「つばさ」という今までにはない校名を付けたわけです。そこで思い切って、教育委員会で提案するこの校歌でいこうと思いますが、よろしいでしょうか。

教育委員：異議なし。

(2) 「教育で選ばれる町」を目指した取り組みについて

～平成29年度 全国・埼玉県 学力・学習状況調査の結果から今後の取り組みを考える～

町 長：7月に、埼玉県学力学習状況調査の結果が埼玉県教育委員会のホームページで公開されました。また9月26日には、平成29年度全国状況調査の結果の一部も公開されました。これらの結果の概要につきまして、事務局より報告をお願いします。

(事務局にて、資料2-1・2-2を用いて説明)

町 長：今の事務局の説明のとおり、結構良い結果が出たと思います。もちろんすべてが良いわけではなく、課題もあるかとは思いますが。皆さんご意見を伺えますか。

菊池委員：学力は決して「点数」だけで評価されるものではなく、粘り強さやたくましさも求められるものですが、どうしても「点数」に気を取られてしまいます。その中で感じるのは、川島町の子どもたちは、教育を受ける機会の格差が広がっていると感じます。そういう意味では「川島方式子ども学習支援システム」は良いと思います。今後更に学力を伸ばしていくために、学童クラブにもっと力を入れてもいいと思います。また、中学生については、教師と生徒が向き合う時間を確保するため、部活動の外部指導などを取り入れ、教師と生徒が触れ合う機会を作れるよう配慮してほしいと思います。

福島委員：「川島方式子ども学習支援システム」のうち、特に学校と私塾の連携や英語指導などは、すぐに成果が表れるものではないかもしれませんが、必要な支援だと感じました。今後は、個人の「個」の伸びを大切に、個人の学力について分析、検証を行い、生徒一人ひとりに意欲を持たせるしかけを設けてほしいと思います。私塾との連携については、教師にも生徒にも刺激を与えられたのではないかと感じました。ぜひ続けてほしいと思います。

及川委員：私が実際に教育相談などを対応していく中で気になったことなのですが、このようなデータは、その事実をどう活かすかが大切だと思います。検証と効果、学力の分散度合いを分析し、それをどのように現場の教師に伝え、教育指導に活かせるか、教師自身が気づく力、見つける力を持てるよう方向付けていくことが大切だと思います。スクーリング・サポートセンターがせっかく新たな拠点を設けたのですから、今後はぜひ不登校の子にも学習の提供が図られるよう検討してほしいと思いますし、不登校に陥らないよう、初期段階に介入できるよう対応してほしいと

思います。

猪鼻委員：今年の夏は、学校と私塾との連携について、小学生が講義を受ける様子を見学しました。この制度は、家庭の事情にかかわらず勉強できる機会を受けられるので、良い制度と思いました。また英語検定受検料の支援については、保護者からの好評を實際耳にしました。

町 長：中村教育長、補足をお願いします。

教育長：今回の結果は、前年度の成果です。今年度の取り組み結果は、次年度の結果として表れます。教育委員の皆さんのご意見をいただきながら、更なる学力向上へ向けて試行錯誤していきたいと思います。

町 長：ありがとうございます。今回の議題としている「教育で選ばれる町」になるためには、豊かな知性、感性を持った子どもを育てることが大切だと思いますが、どのような支援があればよいと思いますか。一言お願いします。

菊池委員：現在の支援について、保護者から「ありがたい」という声も聞いています。ぜひ継続してください。

福島委員：やや、地域格差も感じます。子どもの学力向上は、家庭の状況にも左右されるところがあります。そのためには、学童保育で学習の機会を設ける必要があると思います。学童イコール子育て支援と捉えられがちですが、学童に学習支援を取り入れて、教育と保育の一元化を図ってほしいと思います。

及川委員：子どもたちが広い視野を育めるような教育をお願いしたいと思います。

猪鼻委員：主体的に行動できる子どもたちを育ててほしいと思います。スクリーニング・サポートセンターの活用を図り、子育てがうまくいかない保護者の相談などを行ってほしいと思います。

町 長：ご意見、ありがとうございます。委員の皆さんのおかげで、会議がスムーズに進行しました。これにて議長の座をおり、進行を事務局にお返しします。

教育総務課長：現在、教育委員会では、学校統廃合にかかる重要案件として、出丸小学校と小見野小学校の廃校に伴う、平成30年度からの財産管理などについて検討を進めているところです。この件については、教育委員会として方針を決定した後、総合教育会議で協議させていただきたいと考えています。

参事兼政策推進課長：では、次回の会議開催は11月定例教育委員会後に開催したいと思います。

4 閉会 教育長

署

名

福島 彰